



俳諧一茶集

後編

四

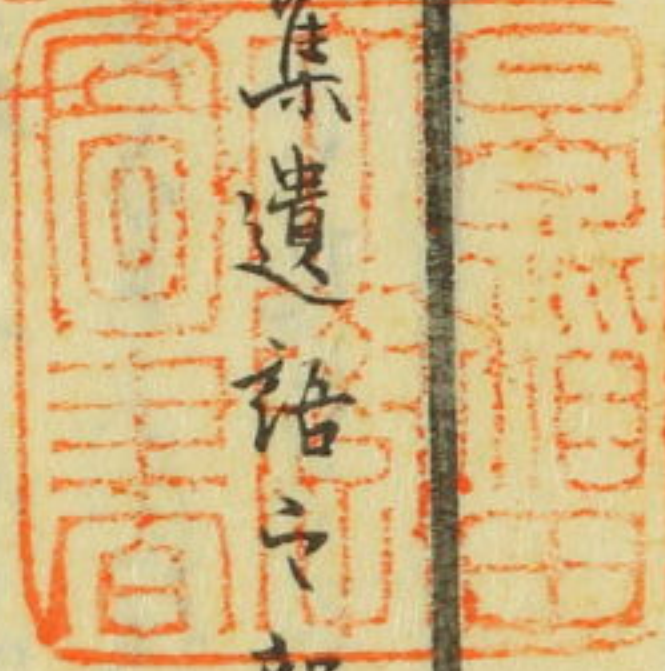
5
4393
9



門 へ 5
4393
巻 9



俳諧一葉集遺語之部



古學庵佛号

幻窓 湖中

坎窩 久藏 校 編

一編曰若代不易の二時の変化ありて二々 或る世に一已を下
りて六風其の誠し不易を一一 され六風を初より其の不易を
云六新古より其の变化ありて其の初より其の不易を一一
しるは其の代々の為人の言を尺の代々の变化ありて又新古
より其の代々の為人の言を尺の代々の变化ありて又新古
是を其の代々の為人の言を尺の代々の变化ありて又新古
より其の代々の為人の言を尺の代々の变化ありて又新古

昭和九年
七月二日
購求



一 七夕や秋をささむけしめぬ夜

去芳まひ白萩のくしめけしめぬ夜に二子やをよめるおかし

一 丈夫や 陽をききし 而せよ

陽をききし けつ 石の上

去芳まひ白萩の大佛の白し今とけしめぬ夜に二子やをよめるおかし

一 明けのぼしや 白萩をききし 而せよ

此白くしめぬ夜に二子やをよめるおかし

一 山本且着田人可し物や止るおかし ありきし 昔今とけしめぬ夜に二子やをよめるおかし

一 支考も文福七の支翁松花坊におとす時人よとせぬおかし

梅くしめぬ夜に二子やをよめるおかし

支考も梅くしめぬ夜に二子やをよめるおかし

一 山本且着田人可し物や止るおかし

一 支考も梅くしめぬ夜に二子やをよめるおかし

なりそあをてやいんハの付も老人の偽しやんが
まねくつたつては付されんまよふまよふと云ふ

秋とさやそつてあやの取

去芳と母の心ハまのふらふらと秋の風向山と
化りいふ思ひまの付るまのなるこたなり一試して
風の平すこひる路行の取れ自らの物と跡に置れ

鳥子似ぬ貴方のまよふと云ふ

去芳と母の心ハの極と星之付つてそと極と阿し
是初の字の位より一と云ふまよふと云ふ

多きうとよとれと云ふ瓜の泥

去芳と母の心ハの瓜のまよふと云ふ泥と云ふ
て泥と云ふ一と云ふれ付る

一人あつたは是陽一秋のくれ

はそやゆ人知よあふは

去芳と母の心ハのとうと人まよふのなる人なると云ふ
一所思と云ふつけまよふと云ふ

桐の本より野のまよふ

去芳と母の心ハの付るまよふと云ふ
下は思ひ付るまよふと云ふ
けいれと云ふ

あふと云ふ

去芳と母の心ハの春の雨と名前のと幾の句も一香を
た人知と云ふ秋を雨と十七文字といふと云ふ
と云ふと云ふ付るまよふと云ふ

一門人の白くえるや家中の死ハ早月教とてあり品門在り
月報とてうりするよこま

一去芳と門人の白く松屋を新海を燈す山後如てとあり弱
曰山海を相定りす

一去芳と門人の白く松屋を新海を燈す山後如てとあり弱
集りてにとて對ハて

一去芳と門人の白く松屋を新海を燈す山後如てとあり弱
け色ハ白くはありの白くして無

一去芳と門人の白く松屋を新海を燈す山後如てとあり弱
くハ初と理屈とな

一回く時あり松林松をハ等の場をきん

一回く時あり松林松をハ等の場をきん

一回く時あり松林松をハ等の場をきん

此方之門人杜ふらむし此方之きん人ふきんしひひむけ
 少曰此方之竹方何きんきんきんきんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん
 入て武若のむきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん

一 おひなりハ杖つお坂をいさぎや
 角めとつらぬ牛とめしん

此松ハ門人お芳のむし少曰此方何きんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん

一 お芳之散むのむしハいこゆきんきんきんきんきんきんきん
 松花と之敷し山里ハ万葉本をいこきんきんきんきんきんきん

このてくにいりて物よむ散むし山里ハ万葉本をいこきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん

一 翁曰人の方おけい散むしハいこゆきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん

一 お芳之手の松手の物おけいこきんきんきんきんきんきん
 きんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきんきん

一箱曰様々の昭安之と記す事にしてな一箱より心を付
て人々へ一とておめれ候のとうとありてなとておめれ候
れは箱曰られ一記す事にして怖れなきとありてなとて
ておめれ候とありてなとて

一古芳と箱曰す味縁の歌の古ひと書上ありてなとて
候事候して尺のさしあはしとてなとて

一古芳言て二三子候事志不らうて候事二三子箱上志を記
箱にありてけし再之の好人言計して曰れは事候
走り候とて書おもふ事入らぬ事記して五人とては彼の内
に二三子ありて候事物や五候事とて女人行ふ止候
一とて候事箱の門より入らぬ事

一箱曰のたまふ人々候事しよふやす一人二人の如き事
候事一人の如き事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

一古芳言箱曰候事思ふ事や箱書の物とて候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

一古芳言箱曰候事思ふ事や箱書の物とて候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事
候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

此人よりんて... 門人... 其の平生... 一

一 去芳... 對面... 其... 一

一 去芳... 對面... 其... 一

一 去芳... 對面... 其... 一

一 去芳... 對面... 其... 一

感... 是... 而... 一

一 去芳... 對面... 其... 一

一 去芳... 對面... 其... 一

一 去芳... 對面... 其... 一

或月次の中し病をふりし門人の書に云く

一翁曰佛法をきくは佛法をいふは一人なり一方その上は
そのをわきまふりたるゆゑにわきまらざる者も有るは
佛法ありしよりして更なる人甚佛法をとりし事とさへ
するは其のよしとす

一翁の語に云く其の言を教する者何れに曰佛法は其の法を用ふ
者より其の法をいふは其の法に依るは其の法に依るは其の法に依るは
其の法をいふは其の法に依るは其の法に依るは其の法に依るは
其の法をいふは其の法に依るは其の法に依るは其の法に依るは
其の法をいふは其の法に依るは其の法に依るは其の法に依るは

一翁曰其の言をきくは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは

一去方なる翁曰其の言をきくは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは

一翁曰佛法の言は俗評をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは

一翁曰其の言をきくは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは

一翁曰其の言をきくは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは
其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは其の言をいふは

他名のち大いそやしくてしつと

一 菊田流書物の物たるは家の御まは外とちうとて必しりお思
儀にありてはしは及名にありては時の拍子又まらりん
しよおまらりてはしは及名にありては時の拍子又まらりん

一 本芳言菊田流書物の物たるは家の御まは外とちうとて必しりお思
儀にありてはしは及名にありては時の拍子又まらりん
しよおまらりてはしは及名にありては時の拍子又まらりん

一 菊田流書物の物たるは家の御まは外とちうとて必しりお思
儀にありてはしは及名にありては時の拍子又まらりん
しよおまらりてはしは及名にありては時の拍子又まらりん

しつと

一 本芳言菊田流書物の物たるは家の御まは外とちうとて必しりお思
儀にありてはしは及名にありては時の拍子又まらりん
しよおまらりてはしは及名にありては時の拍子又まらりん

一 本芳言菊田流書物の物たるは家の御まは外とちうとて必しりお思
儀にありてはしは及名にありては時の拍子又まらりん
しよおまらりてはしは及名にありては時の拍子又まらりん

一 本芳言菊田流書物の物たるは家の御まは外とちうとて必しりお思
儀にありてはしは及名にありては時の拍子又まらりん
しよおまらりてはしは及名にありては時の拍子又まらりん

えとられぬようさきふてなされぬあつたを又ささく
あつてくもられぬものいひてくちをけさくこととてうさ
ういひてさくことさき

一 翁曰 人のうをさきかれ必はさきてなされぬあつたを
うさく一 地誌のうをさくことさき一 只古情をわき人
情通をさく人調をさくことさき一 友なりてさきことさき
一 古者を翁曰 人は非なりさき翁多し今を地とめくことさき恨
あつてふ人の方さきりうさひ志なまの降くなくんは
一 古者さき一 とさき大のは隆きうた子のう帳とて翁をさき
翁はさき一 けさくことさき 一の開帳と又さき一 けさく古代の地を
けさくけさく地をさき一 一の地とさきさき一
一 或は地誌のうをさき翁曰 地誌のうをさき一 臣士をさき一

ものひをさき地をさき翁のう人もなされぬあつたを
地誌のうをさき翁曰 地誌のうをさき一

一 翁曰 定家つと翁の秘記をさき翁入ると翁の秘記を
八公館ふさ翁をさき一 一のあつたをさき一 推考の身と一 一のさき
れさき翁と翁のあつたをさき一 一のあつたをさき一 一のさき
一のひをさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき一

一 翁曰 伊勢の秘記をさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき
文をさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき一 一のさき
翁のあつたをさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき一
一のひをさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき一

一 翁曰 翁のあつたをさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき
一のひをさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき一 一のさき
一のひをさき翁のあつたをさき一 一のあつたをさき一

おうれいつの枝のききすゆま
おとろくくつさつ

一浪化言箱あやし紀伝の山中を越りて対五十ころの男それの
婿とわたりきつゆを新を下して坂中二体ひ信う女を
男の昔をさしひをここの女を若くさるる箱をくすくす
回をゆりて人々を左候とてさるるこの男のこゝろは向の
山のかひもなま又始新をおひし妹とて言わし世りも時
と波あや言れ八曲う陸原仏思を信ふか代の念と行く山中
はらうかおをさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
ましとさるる箱はしと波あやしゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
女のこゝろやうさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

傷らあうハロとさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
妹姿ハゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

一浪化言箱一とさるる文有さるる陸奥り柳を信て越後一とさるる
多ひさるる直に海さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
音の人の深書おさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
風を吹破るるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
れは箱あやしゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
伴信とて引さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
かさるる箱良大と波さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる
対さるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるるさるる

一 毛をひきけしみるぬくし野の足

一 雨の日の白く舞うし一物のさし他しとて支那がさうさう
しとぬ人

一 雨の日のさし一雨さうそ雨尾張りさうさうあひらきし門
人さすの風さうさうひけれさす併めするさうさうさす
のさすひらき

一 草木を折らぬきのよのあすを飽くさうさうはさすしはさすさ
あすはさす折らぬさうさうさうさうさうさう

一 芭蕉をさすさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
も移りさすさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

季吟ハ沙のゆきをふるゆきをさすさうさうさうさうさうさう
門人のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
天下の人も道通さうさうさうさうさうさうさうさうさう
同門の人もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
白のゆきをさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
教りさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
自分のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
人さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

こゝろにこれいふはうきうきとてまじりてやうきうきを中身と
思ふ宗をかよへてうきうきといふ言はれはうきうきとてまじりてやう
きうきとて

有もあふふあふふとてまじりてやうきうきを中身と
思ふ宗をかよへてうきうきといふ言はれはうきうきとてまじりてやう
きうきとて

けつにうきうきの言はれはうきうきとてまじりてやう
きうきとて

一 支考言向一々略言としてうきうきといふ言はれはうきうきとてまじりてやう
きうきとて

一 又座より朽木の肴ふらふかし

楓子

一 一寸の板好 斧子あふり

女角

世故を以て物事のつらさをしりておろしく能く
愛あふく 一 木の皮は白みまじりてかきくも朱も白く
いひまじりて白くまじりてをいひてかきくも朱も白く
百尺竿頭をし中へりてをいひてかきくも朱も白く
かきくも朱も白く

贈女角先生書

板着真如のり御よりおろしくかきくも朱も白く
かきくも朱も白く

只儀張積られし古木同を山の風物見及ふ次韻し
かきくも朱も白く

一支考きつ物に世きつれど三石の新城と云ふ

角 考 製此 ぬくぬい

と不花あす人々集り入るるを系千の津よいつを也
江のち山をこるるかつらつらの庵原つらつを津よのさ
らさく柳にれい中を八箱八箱のちひさうの編津の島城の
うさういさうの子貢又文をさうしるはよの文をすん教
誠の二用と云事しそれを好くいさうや

又志と柳子のさうらうを柳子し

と千のうさうさうとさうさうのぬきよ一付よは付を柳の
て能話のちまうの人をさうさうさうさうさうさうさうの
よやとやねハサとひいていねいねいねいねいねいねい
アゆゆゆゆの付合を尺さうさうさうさうさうさうさうさうの

さうさうのさうさうに箱曰き。能話す進へさうさうさうさう
んのさうの付合をさうさうさうさうの集を尺さうさうさう
それな随縁のぬいひて標縁の対あふん決して知る
しとせさう

一支考きつ物に世きつれど三石の新城と云ふ

管とさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさう や竹の子 藪子 志をさう

さうさう せんや 柳考がふ 素れ 柳

ゆい二のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
情さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

一 次郎とあるはたゞの約丈子乙卯正嘉永の事と云くも言ひ
 昔一時休の所や沙村とあるの事行の約次郎とあるは
 屋を詢の夜更番又と五法米や斗量油二升塩一升味噌
 之外薪廿束炭廿束目録残之米と口沙合一升の事
 類二考し取中々に五十段とある
 一 白く寺法時きんまの約の合乳類之差を取す
 法にのまをくく膳帳一の目是より去法をくく
 の法帳の方の跡一室作り大井川の作りきり
 大堰川波子 煮物 文の目
 一 白のりより多きと云く大井川の作りきり
 一 白のりより多きと云く法帳一

法帳や波子 煮物 文の目
 一 白のりより多きと云く大井川の作りきり
 一 白のりより多きと云く法帳一
 一 白のりより多きと云く大井川の作りきり
 一 白のりより多きと云く法帳一
 一 白のりより多きと云く大井川の作りきり
 一 白のりより多きと云く法帳一
 一 白のりより多きと云く大井川の作りきり
 一 白のりより多きと云く法帳一

方しるふ加減一と心をも憂ふとととも業力とついで乳くハ
治はる代際もくめんと也山末沙のり沙回木末のり中
をふれとやいふれは方なりて虎口就味を堅すとも天業
いんうきん年約悟そ一付れハ系末汲めかこん人言ハ
かしく木節、和方そ根さん伝も、むかひ外、下言ハ
風俗そ伝人ハ乳可也す、さう外、支者乙お末末、下ゆ
さ、やふうれハ末末、さう外、系末の探母、とん、い
り、さ古末、う、鴻鳥の系沙お介く大期、辞世ありさ
く、う此系末の辞世あり、一、や、支者い、さ、の、と、あ、く、し
ゆ、と、れ、一、と、を、辞、一、辞、は、能、門、人、の、ら、き、と、め、く、一、沙、回、木、の
の、最、白、ハ、り、の、辞、せ、り、の、最、白、ハ、り、の、辞、世、身、生、涯、の、辞、世、
句、一、句、と、一、辞、世、あり、さ、う、外、一、り、系、辞、世、の、一、同



人、ゆ、ハ、ハ、年、清、い、心、持、置、し、白、ら、れ、さ、う、と、も、辞、世、あり、と、
路、り、れ、一、諸、法、從、来、昔、示、寂、滅、相、と、れ、ハ、是、然、乎、の、辞、世、あり、
一、代、の、佛、教、ハ、二、句、より、か、ハ、如、古、何、や、植、民、こ、む、あ、の、さ、う、は
白、と、系、一、風、と、無、さ、一、う、け、い、の、辞、世、と、生、存、百、年、の、句、と
吐、り、可、也、あり、さ、う、外、一、り、さ、う、以、白、く、辞、世、あり、さ、う、外、と
り、付、く、あり、と、次、即、系、末、の、例、より、は、を、譯、す、と、さ、う、い、の、か、
不、解、し、あり、と、は、語、を、さ、う、と、言、ハ、微妙、の、句、の、人、あり、さ、う、と、
一、支、者、の、言、ハ、多、岐、入、り、て、唯、唯、の、妙、妙、有、者、す、柳、を、贈、り、さ、う、
息、を、ふ、と、さ、う、外、一、り、伊、賀、さ、う、外、一、り、吉、本、乙、の、り、
柳、を、さ、う、と、言、ハ、一、り、沙、回、木、末、の、り、沙、回、木、末、の、り、
物、あり、の、最、白、里、の、柳、枝、あり、と、言、ハ、親、族、より、さ、う、外、
中、に、さ、一、ハ、系、過、あり、今、大、病、と、り、お、さ、う、外、ハ、一、系、中、の、さ、う、

一 去芳卓然... 伊賀... 三井寺... 男女... 起む... 伊賀... 三井寺... 男女... 起む... 伊賀... 三井寺... 男女... 起む...

こころ月... 伊賀... 三井寺... 男女... 起む... 伊賀... 三井寺... 男女... 起む...

引導香語

支考記

雪月魁魁風花精神等閑一句驚動人天嗚呼
奇哉芭蕉妙哉芭蕉萬里白雪一輪明月五
一年一字不規

各拾香

いのしほしをうゝ義仲寺に百五十九の巻

但三ヶ所所假ニケテハ小指先は一ヶ所ハ小き指四方

角折し

俳諧一葉集天尾

一葉集叙

人乃由年一はるや瞬の息の官のこゆる能
やうも葉月のゆくの地をいこほし志を
らくこ意は色はるをるのしほしみせ
た子やや春の花月の夕形をかろし
思ひをやりしを哀あやし抱えし
あうま友のよの屋をくぬく風海は
源を探り被系乃らうを忘る凡宇内乃



好むと云ふ名は其の如くなりとの如し

之の如く成るるを曰一徑筆を尾花尾
南斎と採

此の如く成るるを曰一徑筆を尾花尾
南斎と採

一具菴藏板

文政十年丁亥仲秋刻成

製本所

江戸本石町十軒店

書肆

萬笈堂英大助

